

中学校第2学年
美術



端末で考えたアイデアスケッチをお互いに見せ合いながら、
伝えたい内容が伝わったか確認し、自分の考えを更に深める。

「伝えたいことを効果的に伝えよう～多様な人々に伝わる動くポスター」

■ 題材の目標

形や色彩などの感情にもたらす効果や、造形的な特徴を基に全体のイメージなどで捉えることを理解する。また、伝える相手や内容などから主題を生み出し、分かりやすさや美しさなどとの調和を考え構想を練ったり鑑賞したりし、意図に応じて表現方法を創造的に工夫する。美術の創造活動の喜びを味わい、感性を豊かにし、目的や機能などを考えて表現や鑑賞の学習活動に主体的に取り組もうとする。

■ 題材の概要

環境問題などを地域の多様な人々に分かりやすく伝えるために、伝える相手や内容などから主題を生み出し、形や色彩などが感情にもたらす効果、分かりやすさと美しさなどとの調和を総合的に考え、表現の意図に応じて創造的に工夫して表す。

■ 題材の指導計画（8時間）

第1次

- ・ 社会で使用されているポスターの鑑賞から、作者の心情や表現の意図と創造的な工夫について考える

第2次

- ・ 伝えたい内容を考えてアイデアスケッチで構想を練る
- ・ 考えたアイデアスケッチを相互に鑑賞する
- ・ 再度アイデアスケッチを構想し直す

第3次

- ・ トートバックにシルクスクリーンの技法を生かして作成する

第4次

- ・ お互いの完成作品を鑑賞する

■ 題材の内容の概要（指導上の留意点）

ポスターを鑑賞し、目的や機能との調和のとれた美しさなどを感じ取り、作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考えることができるようにする。

アイデアスケッチをお互いに見せ合うことで、客観的な視点から、表現の意図や創造的な工夫を確認し、よりよくするため更に構想を練るようにする。

発想や構想したことを基に、意図に応じて工夫して、制作の順序なども創造的に考えることができるようにし、トートバックにシルクスクリーンで表す。

■資質・能力が育成され「深い学び」が実現している子供の姿（第2次）

【学習活動の場面】

環境問題などの様々な課題について、人々に分かりやすく伝えることを考え、アイデアスケッチで構想する。それを客観的な視点でお互いに鑑賞し合い、表現の意図や創造的な工夫を考え、より効果的に伝えられるようにするために更に構想する時間を設定している。お互いのアイデアスケッチを鑑賞する際に、教師は「**何を伝えようとしているのか、そのためにどのような工夫をしているのか考えて、より効果的に伝えるためにどうすればよいかお互いに伝え合おう**」と生徒に投げかけた。

【子供の「深い学び」の姿】

- 画面上のアイデアスケッチをお互いに鑑賞し、見る人に分かりやすく伝えるためにはどうすればよいかを考え、お互いに気付いたことや考えたことを伝え合う。

B「Aさんの作品は、描かれている人の数の変化から人口減少の問題について表していることが伝わってくるよ。」

A「人口減少の問題をもっと印象的に伝える方法はないかな。」

B「人の並べ方や大きさを変えてみたらどうだろう。」

C「彩度や構図を工夫するとより印象的に伝わるかもね。」

- 友達からの意見を参考にして更に構想する。

A「より人口が減っていることが伝わるように、人の大きさを段々小さくしてみたらどうかな。」

A「グラデーションで段々薄くすることで将来への不安も表せそう。色々な方法を試してみよう！」

【当該指導での「深い学び」】

ここでは、各生徒が発想や構想をする際に、お互いのアイデアスケッチを鑑賞し合い、表現の意図や創造的な工夫などについて客観的な視点から意見を出し合うことで、相手にどのように伝わったかを確認し、見る人により分かりやすく伝えられるよう端末の特性であるコピーや移動、レイアウトがしやすいことなどを生かして、更に考えて構想を深めていった。また、生活や社会の中の美術の働きにも着目しながら、表現方法を模索することができていた。

■指導上の工夫とICTの利活用

- ① アイデアスケッチをお互いに鑑賞する。

* 端末上で表したアイデアスケッチを、端末を見せ合いながら鑑賞する。

- ② お互いの作品についての話し合いを踏まえて、端末の特性を生かし、構想を練り直す。

* 友達の感想や意見を実際に反映させてみて、その効果まで友人と話し合うことで、対話的な学習の質を高めることができる。

- ③ 端末の複製機能を使い、修正前後のアイデアスケッチを比較できるようにする。

* 他者の意見を組み合わせたり、関連付けたりしてアイデアスケッチを更に修正し、最初のものと比較してみることで、生徒自身が考えの深まりを実感できるようにする。



学習指導要領や解説との関連

中学校学習指導要領 第2章 第6節 美術

第2内容 A表現（第2学年及び第3学年）

イ 伝える，使うなどの目的や機能を考え，デザインや工芸などに表現する活動を通して，発想や構想に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

- (1) 伝える目的や条件などを基に，伝える相手や内容，社会との関わりなどから主題を生み出し，伝達の効果と美しさなどとの調和を総合的に考え，表現の構想を練ること。